

株式会社オライリー・ジャパン

2013年5月10日

もっと多くの人に「作る楽しさ」を / Maker 同士がつながり、議論する

「Maker Conference Tokyo 2013」**2013年6月15日（土）日本科学未来館で開催決定**

「Make」誌 編集長 Mark Frauenfelder、Seeed Studio CEO Eric Pan 氏が基調講演

コンピューター技術者向け専門書などを発行する出版社 株式会社オライリー・ジャパン（本社：東京都新宿区／代表取締役：John Moore）は、2013年6月15日（土）お台場の日本科学未来館にて、Maker Conference Tokyo 2013を開催します。

自らの手を使って実際にモノを作り、その成果を共有する「Maker ムーブメント」は、昨年後半からここ日本でも海外同様に大きな盛り上がりを見せ、多くの方の注目を集めました。このムーブメントをよりよい形で日本に定着させ、一人でも多くの方が参加しやすい環境を作るために必要なことを議論するイベントが「Maker Conference Tokyo 2013」です。

Maker ムーブメントを先導してきた「Make」誌の編集長である Mark Frauenfelder、中国にてオープンソースハードウェアの世界で先進的な取り組みを行っている Seeed Studio の CEO、Eric Pan の両氏をスピーカーとして迎える基調講演を皮切りに、「Maker フレンドリーな製品」「もの作りのためのスペースとコミュニティの運営」「Maker を育てる教育」などについて、数年間に渡って日本の Maker ムーブメントを支えてきたモデレータを中心に議論を行います。

秋の Maker Faire Tokyo 2013 の開催を控え、今後の活動のためのアイデアと刺激、新しいコラボレーションを探す機会になることでしょう。

■実施概要

- ・名称：Maker Conference Tokyo 2013
- ・日時：2013年6月15日（土） 受付開始 10:00／開演 10:30／終了予定 18:00
（懇親会 受付開始 18:00／開始 18:30／終了予定 20:30）
- ・会場：日本科学未来館（<http://www.miraikan.jst.go.jp/>）7階 東京都江東区青海 2-3-6
（懇親会 タイム 24ビル 11F「スカイレストラン シーガル」）
- ・定員：250名
- ・料金：3,500円（カンファレンスのみ）、7,000円（カンファレンス＋懇親会）
チケットはイープラスにて5月13日（月）より発売開始予定。
※日本科学未来館の入場券は購入不要です。また、懇親会のためのチケット販売はありません。
- ・主催：株式会社オライリー・ジャパン
- ・URL：<http://makezine.jp/event/mct2013/>
- ・ハッシュタグ：#MCT2013

（2013年5月10日現在）

■お問い合わせ先

株式会社オライリー・ジャパン 担当：鹿野（pr@makejapan.org）
〒160-0002 東京都新宿区坂町 26-27 インテリジェントプラザビル 1F
TEL: 03-3356-5227 FAX: 03-3356-5261

■基調講演

Mark Frauenfelder (マーク・フラウエンフェルダー)

新しい DIY の潮流「Maker ムーブメント」を牽引する「Make」誌 (Maker Media 発行/日本語版はオライリー・ジャパンから発行) の編集長。ブロガーとしても知られる。1988 年に自費出版の雑誌 (zine) として「bOING bOING」を創刊、1993 年から 1998 年まで「Wired」誌の編集に携わった。「bOING bOING」は、ブログメディア「boingboing.net」へと移行し、同誌は世界で最も人気のあるブログメディアのひとつとなっている。著書に自らの DIY 体験とそこから得られる気づきを綴った『Made by Hand ― ポンコツ DIY で自分を取り戻す』(オライリー・ジャパン) など。



Eric Pan (エリック・パン)

Seeed Studio のファウンダー、CEO。エレクトロニクス、組み込みシステム、ロボティクスの実践を通じて電気技術者として経験を積んできた。学校を卒業後は、Intel にてチップセットのプロダクトエンジニア、品質管理、新製品の市場導入に携わり、その後、輸出入、部品調達を経験した。2008 年に Seeed Studio を設立。Maker のアイデアをプロダクトにすることを支援するオープンソースハードウェアのソリューションとサービスを提供している。他に、深圳市にて、ChaiHuo hackerspace を創設、ハードウェア開発を促進するプログラム HAXLR8R を共同創設し、中国国内で初めての Mini Maker Faire を開催した。



■タイムテーブル (予定)

10:00 開場

10:00-10:30 受付

10:30-10:35 ご挨拶 (オライリー・ジャパン)

10:35-11:20 基調講演 (Mark Frauenfelder)

11:20-12:05 基調講演 (Eric Pan [Seeed Studio])

12:05-13:05 昼食休憩

13:05-14:35

A-1) Maker フレンドリーな製品を作る (モデレータ: 久保田 晃弘)

B-1) モノを作るためのコミュニティ・場所を作る (モデレータ: 高尾 俊介)

14:50-16:20

A-1) Maker×メーカー (モデレータ: 小林 茂)

B-2) (B-2) 参加者駆動型イベントの未来 ― Make からニコニコ学会βまで (モデレータ: 城 一裕)

16:35-17:05 プレゼンテーション

17:05-18:00 Maker のための新しい教科書を作る

18:30-20:30 懇親会 (タイム 24 ビル 11F、スカイレストラン シーガル)

* 内容の一部は変更になることがあります。

●Maker Conference Tokyo 2013 プログラム委員

久保田 晃弘 (多摩美術大学 (ARTSAT、FabLab Shibuya))

小林 茂 (情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 准教授)

城 一裕 (情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 講師)

■セッション情報（予定）

A-1) Maker フレンドリーな製品をつくる

村松 一治（ローランド ディー.ジー.株式会社）

宮本 数人（ローランド ディー.ジー.株式会社）

坂巻 匡彦（株式会社コルグ）

小林 茂（情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 准教授、f.Labo プロデューサー）

モデレータ：久保田晃弘（多摩美術大学教授、ARTSAT、FabLab Shibuya）

パーソナルなデジタル工作機械やネットワークによる情報共有によって、個人の Maker たちがつくる世界がどんどん広がっています。そんな中、Maker たちが愛する Maker フレンドリーな製品も確かに存在し、その人気が高まっています。ユーザーが各自の使用に合わせてカスタマイズしたり、設計者やデザイナーが予想しなかったクリエイティブな使い方ができる、オープンかつソーシャルな製品の事例を紹介し、これからの製品開発のあり方を議論します。

B-1) Maker のためのスペースとコミュニティ — 作る、維持する

渡辺 ゆうか（FabLabKamakura,LLC）

岩岡 孝太郎（FabCafe Fab Director/Producer）

モデレータ：高尾 俊介（オライリー・ジャパン）

現在、全国各地に FabLab やハッカースペースといった、個人によるものづくりのためのスペースと、そういった場所に集う人たちのコミュニティが生まれています。このセッションでは、各地の場所やコミュニティの運営に関わる方々と共に、ディスカッションを行います。場所の作り方や、運営について注意すべきことなど、様々な事柄について話し合いながら、よりよい場所づくりとコミュニティを運営するための方法を検討していきます。

A-2) Maker×メーカー

（登壇者は後日発表の予定です）

久保田晃弘（多摩美術大学教授、ARTSAT、FabLab Shibuya）

モデレータ：小林 茂（情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 准教授、f.Labo プロデューサー）

人々の価値観の多様化や製造のグローバル化によって、高品質、高性能を追求して成功してきた日本の製造業のあり方は大きな変革を求められています。このセッションでは、日本での Makerムーブメントに関わってきた企業の方々と一緒に、「メーカー」と呼ばれる企業が「Maker」と呼ばれる人々と一緒に生み出す、新しい生態系の可能性についてディスカッションします。

B-2) 参加者駆動型イベントの未来 — Make からニコニコ学会βまで

江渡 浩一郎（ニコニコ学会β実行委員会委員長／独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員）

よしだ ともふみ（テクノ手芸部）

田村 英男（オライリー・ジャパン）

モデレータ：城 一裕（情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 講師）

同時代的な現象としての Make とニコニコ学会βは、参加者駆動型のイベント、という共通点がある一方、例えば空間と時間の使い方のように、そのスタイルに差異を持つコミュニティでもあります。このセッションでは、Maker や野生の研究者と、プロフェッショナルなデザイナーやアーティスト、科学者（と呼ばれる専門家？）とがいかにか違うのか、いや、違わないのか、という視点のもと、既存の学会やコミケ、dorkbot といった先行する事例を参照して、似たようで異なる両者の設計思想から、参加者の位置づけ、さらにはお互いへの羨望と不満にいたるまでを議論します。

■取材についてのお願い

・事前取材のアレンジにつきまして

Mark Frauenfelder のインタビューをアレンジいたします。Mark 自身の DIY 体験や、米国における Maker ムーブメントの最新動向などについて、個別にご取材いただけます。詳しくは、pr@makejapan.org までご連絡ください。

・イベント当日の取材につきまして

Maker Conference Tokyo 2013 の取材を希望されるメディアの方は、事前に以下の URL よりお申込みください。

<http://makezine.jp/press/>

ご来場の際はプレス受付（7 階）までお立ち寄りください。

プレスタグを受領いただいた後は、場内をご自由に取材していただけます。

掲載誌は、オライリー・ジャパンまでお送りいただけますと幸いです。

（ウェブサイトの場合は記事の URL をお知らせください）。

※当日の写真撮影について

撮影の際には、それぞれの方の許諾を得てからとしてください。

プライバシーにご配慮いただき、ご来場いただく方が気持ちよくイベントに参加できるように

ご協力をお願いいたします

■今後の Make 関連イベントスケジュールにつきまして

・Maker Faire Tokyo 2013

2013 年 11 月 3 日（日）、4 日（月・振替休日）

主催：株式会社オライリー・ジャパン

※詳細は決定次第追ってご連絡を致します。

・Yamaguchi Mini Maker Faire

2013 年 8 月 10 日（土）、11 日（日）

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

共催：株式会社オライリー・ジャパン

プレスリリース：http://www.ycam.jp/press_release/maker-fair_20130424.pdf

参考資料① Maker ムーブメントとは？



「Make: technology on your time」は2005年2月、米国の出版社 O'Reilly Media より、雑誌と Web サイトという形でスタートしました。

自宅の庭や地下室やガレージで、びっくりするようなものを作っている才能あふれる人たちのコミュニティが、現在どんどん大きくなっています。「Make」は、そうしたコミュニティ同士を結びつけ、刺激と情報と娯楽を与えることを目的としています。

「Make」は、すべての人が思いのままに、あらゆるテクノロジーを遊び、いじくり、改造する権利を称賛します。「Make」の読者は、自分自身、環境、教育—私たちの世界全体をよりよいものにするための文化、コミュニティとして成長を続けています。

雑誌と Web サイトの双方で、さまざまな作品やその作り手 (Maker)、読者自身が実際に作って楽しむことのできるプロジェクトを紹介していったところ、その記事を通じて、それまで個別に制作活動を行っていた Maker 同士のつながりが生まれ始めました。そのつながりはすぐに Maker 同士、Maker と読者が交流するイベントとして結実し、より大きなものになっていきます。「Maker Faire」の誕生です。

「Maker Faire」の成功により、「Make」は単なる雑誌ではなく、「Make」本誌＝ペーパーメディア、Makezine.com (ブログ)＝Web メディア、Maker Faire (イベント)＝ソーシャルメディアの3つが織りなす一種のムーブメントとなりました。その活動は海を渡り、日本やイギリスでもイベントを行うまでに大きくなっています。**現在 Maker Faire は世界約 60 か所で開催され、2012 年 5 月に San Francisco で開催された Maker Faire Bay Area 2012 には 2 日間で約 11 万人が来場しました。また、2012 年 12 月に日本で開催された「Maker Faire Tokyo 2013」には 240 組が出展、9100 名が来場しています。**

日本でも、新しい「手作り」の形として、Maker ムーブメントが注目を集めています。「Make」はそんな人たちを広く紹介し、さまざまなモノづくりの知識や経験を共有し、交流する場を生み出しています。「Maker Faire」は、実際に Maker たちが試行錯誤して作り上げたモノや卓抜な技術を発表する場所であり、人 (Maker) と人 (来場者やあらたな Maker) が出会う刺激的な場所になっています。

2013 年 1 月には、O'Reilly Media から、Make Division が独立分社化を果たし、Maker Media 社が設立されました。Maker ムーブメントとそれを支えるメディアは新たな局面を迎えようとしています。(日本では、株式会社オライリー・ジャパンが Maker Media 社の International Partner として、雑誌 (「Make」日本語版)、イベント (Maker Faire)、ウェブサイト (makezine.jp) を発行・運営を通じ、日本の Maker を支援する活動を引き続き展開していきます。)



参考資料② Maker Faire Tokyo 2012 の様子

(Photo by : ただ (ゆかい))



水道橋重工の「クラタス」。全高 4m、重量 4t、人間が搭乗可能なロボットです



小型ガイガーカウンターの展示即売



子供が楽しめる展示も。家族連れの方にもたくさんご来場いただきました



実際に自分の手を動かして体験できるワークショップも多数実施



クラフト（手芸）ゾーンも人気コーナーの一つ。写真は PC の基板を刺繍した作品



DIY MUSIC と題したステージでは、自作楽器によるライブを開催



プレゼンテーションでは活発な意見の交換が行われました